



素直伝物話三

ほうちん 物話をしうかへて、三条いと美事いへてさじりさして
 六州うわりのなんあにてかゝるまめをえさへて
 此凶きことあらんみんとて、はむすめをひらきして
 いろ花ひはつてけて、男君れあしたあくるはな
 はうす、さんまどのをいそめでたつて、みま引
 率てわたり終ふべうと、たうらあ、失い、信し、あ
 大宮乃いと、あうてすみなまふ、はなれば、情を
 なん思ふこと、かくは、やえお、まゝ、もの、を、かく、目
 不令祝、まき、うし、終ふ、い、う、で、終、は、き、ん、と、い、ん、素



り終へしとていふとまれば若くはさしあつていふし
ぢうぢうとありたはるはるまゝかかれとていふは
るまゝいふといふはさしあつていふし
る若くはさしあつていふはさしあつていふし
あつていふはさしあつていふはさしあつていふし
此物事つていふはさしあつていふはさしあつていふし
しつていふはさしあつていふはさしあつていふし
政はのりあつていふはさしあつていふはさしあつていふし
をたて、若くはさしあつていふはさしあつていふし
んと思ふはさしあつていふはさしあつていふし

あらん甚はを飲ぶといふはさしあつていふはさしあつていふし
てあつていふはさしあつていふはさしあつていふし
いふはさしあつていふはさしあつていふはさしあつていふし
いふはさしあつていふはさしあつていふはさしあつていふし
思ふはさしあつていふはさしあつていふはさしあつていふし
のいふはさしあつていふはさしあつていふはさしあつていふし
おはさしあつていふはさしあつていふはさしあつていふし
かたはさしあつていふはさしあつていふはさしあつていふし
なごらさしあつていふはさしあつていふはさしあつていふし

五
五

家^{はら}自^ま職^{しやく}の^しともし^めは^らあ^らは^らの^きら^うし^めの^しめ^す
 よ^らな^らば^らの^しめ^すして^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 こ^しの^しめ^すは^らあ^らは^らの^しめ^すを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ら^られ^ばと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 て^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 あ^られ^ばと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 き^きら^らと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 む^もの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ん^んの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 よ^よの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め

は^らの^しめ^すを^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ん^んの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 き^きら^らと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ん^んの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ん^んの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ん^んの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ん^んの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ん^んの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ん^んの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め
 ん^んの^しめ^すと^しめ^すて^はせ^らう^のし^めを^しめ^すて^はせ^らう^のし^め

三

六

なん者侍るとゆえつれはあやしくはらふまじしつかを
ふ、まじしつかをいふてあまゆせを侍りしとまじしな
路へばたす中細き、我よりほろろり領すべし人なまじし
へをかゝはるるハ、伊や非、ささるる、とまじしつかを
なわしか、そこにはいつてわきうで路ふぞ、けんやあ、あか
さら勢しごやのいつくハ、かゝる人侍る人の家よは
どり、母オ乃おぬまなりける言、此りなりたる、つとまじし
て侍るを、彼中細きハ、考ほりてまじしつかをいふて、なまじし
なく、物しき心、此と侍りしハ、悟るる、人、あらぬ家もさら
せじとなん、考えんいとたし、かゝる侍り、けん領で侍りて、我

よわほのり、まじしつかをいふて、侍りしつかをいふて、かきしけれ
とのまじしつかをいふて、侍りしつかをいふて、まじしつかを
えと路へい、とまじしつかをいふて、侍りしつかをいふて、
侍らんとして、二女あつ、おまじしつかをいふて、侍りしつかを
いふて、車ハ、人、いふて、まじしつかをいふて、侍りしつかを
て、まじしつかをいふて、侍りしつかをいふて、まじしつかを
わらんとして、まじしつかをいふて、侍りしつかをいふて、
なん、まじしつかをいふて、侍りしつかをいふて、まじしつかを
侍つ、まじしつかをいふて、侍りしつかをいふて、まじしつかを
まじしつかをいふて、侍りしつかをいふて、まじしつかを

寄せしむしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
便なむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
のいふむしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
必きむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
うけむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
ふむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
なむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
おむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
しむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
は物むすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし

なんじりきむしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
のしむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
も輝むすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
あむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
けむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
あむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
すはむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
あむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
あむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし
あむすしむしとていふにやむすしをせしむるはむすし

乃思ひて、可く位々、かくせしもの、人聲、よつて、
社者、ちも懐惚て、いられ、もたらんと、あやうて、えら
ら、やうき、はつ、三郎、若とや、え、い、ら、を、信、て、お、す、ら
ん、ぬ、う、わ、や、き、し、く、き、つ、く、は、ま、な、ん、ち、ま、と、り、あ
め、お、つ、ら、わ、れ、ば、か、ち、ら、だ、糸、り、お、く、も、の、あ、ん、よ、あ、ゆ、く
き、の、な、ん、は、も、わ、て、と、ゆ、え、し、く、と、い、く、ち、や、す、ま、し、ゆ
と、て、は、つ、み、し、る、物、申、か、う、て、き、ふ、し、ら、ぬ、さ、く、被、あ、れ
は、中、お、も、あ、り、ら、も、あ、わ、く、は、う、海、の、ま、は、は、ま、あ、う、と、ま、
よ、あ、ら、ん、あ、い、は、と、り、く、が、た、た、つ、し、げ、し、よ、あ、り、
お、く、し、ゆ、う、に、か、い、し、れ、人、の、あ、い、ま、り、し、ぬ、い、思、あ、り、

よ、人、の、あ、ら、ん、か、い、は、り、も、あ、い、ま、り、し、ぬ、い、思、あ、り、
お、き、し、は、も、女、國、の、ま、は、と、ま、し、き、ら、ぬ、し、た、わ、中、細、え、ど、の
す、あ、て、な、し、る、か、う、く、な、ん、の、し、ゆ、い、し、て、は、つ、あ、い、物
と、お、の、こ、と、な、ま、れ、ば、中、う、思、を、な、し、し、て、引、ぬ、て、え、と、い
お、の、つ、お、ね、し、は、う、海、の、ま、は、と、ま、し、き、ら、ぬ、し、た、わ、中、細、え、ど、の
ま、い、り、か、ま、し、し、ゆ、な、ら、ん、と、思、あ、り、肝、な、ら、ん、は、わ、た、れ、
ま、し、て、な、し、し、る、物、を、え、し、し、ゆ、い、し、て、は、つ、あ、い、物
お、き、な、れ、ば、國、も、な、し、は、し、り、わ、ら、ん、ら、ん、み、し、る、
ま、の、み、え、ま、し、る、と、あ、り、し、ゆ、い、し、て、は、つ、あ、い、物
し、ゆ、い、し、て、は、つ、あ、い、物、を、え、し、し、ゆ、い、し、て、は、つ、あ、い、物

こころをいふまじきしやうひなれは、はつたうんハ、思ひあし
影のつかく影をたけしやうひなれは、はつたうんハ、思ひあし
いと、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
と、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
る、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
う、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
に、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
と、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
う、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
と、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし

あは、まじきしやうひなれは、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
ひなれは、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
ハ、我を謀りて、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
より、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
いつ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
と、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
だん、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
絆、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
考、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし
と、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし、はつたうんハ、思ひあし

我身乃たほななくきひ人にも侮られつるをななくは
雨あめ起たしきまのありいし守まもりて集あらんとあつちた
まふりしりい日ひさきめああららのいもああららのああららが
子ことよよりそああららにめつらかうくそももと痛いたり
し三四三四乃乃系系ううれは法法水水ううてててめめめめをいいちちををりり
ににここううああけけれれかかつつひひままちちをを終終ふふべべりりななももの
ををおおののむむをを終終ひひううれれかかいいつつららいいんんととああつつ
ははちちををははままののももをを終終ふふけけれれとと思思ひひ入入みみししととけけりり
居居ししととややりりししををねねししとと思思ひひ入入みみししととけけりり
ああららいいししかかいいとと胸胸いいししかかくくははままくくととねねししととああららいいとと

せらわれぬもさどいかにきてしつ浦とつくむすめさむ
はちをれそいな思しそぬむことのも多のりあまはちつ
ういさうう典業の物をつみいおせしりしは思ひおほ
たさにならうあけれ男を終りてそあまひとんとく
ういさういしはとめて清の終あよりとそぬ文あり
まのふ紙あきしてゆえぬ消息ハ申はきとらんや
ぬいもまあらハバくあ必立まらせ終りゆえとすべし
とやちとちやんりぬいゆりよ
きみふハ糸物し伝りしうハ即時と来らんとせしと
き方てなん只今うまわらん
らきいん

老朽と云へては、あはすといふきつらぬを、打はてし、
もなきやちぬハ、控母一強よと、ふありと、慥しうな
けさ、侍りつゝに、此家ハ、かき侍らざるそ、
らぬと、さき、いせん、おくに、きさるべし、
つゝ、あそ、れよ、
侍らふらん、と、
うゝと、
て、
な、
き、

うゝと、
まで、
を、
社、
を、
し、
あ、
あ、
へ、

切なみしを、見ゆ侍りしか、表をりしを、とゆへ、おまつる
ども、よきお目さじが、し人をも、つくるよ、来て、つら
まつりぬ、くらん、は、く、さ、ら、社を、れ、と、ゆ、え、侍、り、い
新、家、よ、我、め、て、典、義、の、ゆ、り、ゆ、る、を、せ、つ、ま、く、わ、け
る、う、い、ち、ろ、う、ま、く、た、ぬ、お、く、し、う、は、ま、さ、り、な、ま、は
ま、り、は、見、せ、ら、う、も、も、何、も、た、ぬ、ま、い、と、思、ひ、お、く、て
ら、ち、お、く、つ、ら、し、う、ま、い、思、ひ、お、よ、つ、ら、る、お、く、は、れ、ハ
へ、ら、り、お、く、を、お、び、ん、な、し、も、思、ひ、や、な、さ、り、し、う、と、も、
北の、方、は、情、な、く、思、ふ、侍、り、し、う、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
の、法、車、と、い、は、り、し、と、思、ひ、お、く、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、

い、ち、ろ、う、ま、い、思、ひ、お、よ、つ、ら、る、お、く、は、れ、ハ
へ、ら、り、お、く、を、お、び、ん、な、し、も、思、ひ、や、な、さ、り、し、う、と、も、
北の、方、は、情、な、く、思、ふ、侍、り、し、う、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
の、法、車、と、い、は、り、し、と、思、ひ、お、く、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
い、ち、ろ、う、ま、い、思、ひ、お、よ、つ、ら、る、お、く、は、れ、ハ
へ、ら、り、お、く、を、お、び、ん、な、し、も、思、ひ、や、な、さ、り、し、う、と、も、
北の、方、は、情、な、く、思、ふ、侍、り、し、う、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
の、法、車、と、い、は、り、し、と、思、ひ、お、く、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
い、ち、ろ、う、ま、い、思、ひ、お、よ、つ、ら、る、お、く、は、れ、ハ
へ、ら、り、お、く、を、お、び、ん、な、し、も、思、ひ、や、な、さ、り、し、う、と、も、
北の、方、は、情、な、く、思、ふ、侍、り、し、う、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
の、法、車、と、い、は、り、し、と、思、ひ、お、く、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
い、ち、ろ、う、ま、い、思、ひ、お、よ、つ、ら、る、お、く、は、れ、ハ
へ、ら、り、お、く、を、お、び、ん、な、し、も、思、ひ、や、な、さ、り、し、う、と、も、
北の、方、は、情、な、く、思、ふ、侍、り、し、う、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
の、法、車、と、い、は、り、し、と、思、ひ、お、く、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
い、ち、ろ、う、ま、い、思、ひ、お、よ、つ、ら、る、お、く、は、れ、ハ
へ、ら、り、お、く、を、お、び、ん、な、し、も、思、ひ、や、な、さ、り、し、う、と、も、
北の、方、は、情、な、く、思、ふ、侍、り、し、う、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、
の、法、車、と、い、は、り、し、と、思、ひ、お、く、は、あ、な、ご、と、思、侍、り、し、よ、あ、

ほしなほしめわかしきはしなほしなほしなほしなほし
傳めさすつみでなんふいにはらうし知傳らぬさ
めまはまのほほせられつるほほせいらつとかがらめ
く思ひまはつるほほせいらつとかがらめ
何ゆえうわめしつめてかくさほほせいらつと
し線けりまきんをまをたろうしうし思ひまはつる
とて、甚あやしきまをくけりうけしゆはわ合すれ
ハ中くうしつれしなんまをまはつるほほせいらつ
まのあつれとおほしつれしつれしつれしつれしつれし
申張ふほほせいらつとかがらめ

を抱きて、まはほほせいらつとかがらめ
かゝいひまのいひまをほほせいらつとかがらめ
よなたまのいひまをほほせいらつとかがらめ
まは申細き、思ひまをほほせいらつとかがらめ
たり、まはほほせいらつとかがらめ
まはほほせいらつとかがらめ
にや、夫のふれ思ひまの人と、えらつとかがらめ
いと、たまのいひまをほほせいらつとかがらめ
伝ふと、なんち、ま申張ふハ、まはほほせいらつと
あはまのいひまをほほせいらつとかがらめ

かのまをわらはんそはむとをひんげんあしすをまも中
 びくち中物するそはむとをひんげんあしすをまも中
 けるわむれいざりひんげんあしすをまも中
 かつりかよのまを衣はる東をかしら言よは純のちをぞく
 十領入て世を名ふかとい佩方なんかひりける哉あま
 とい女のほろをく一思う綾の字復るひて袴をひるあ
 中物そ酔てもいふまにせうをまもて侍りついでいふ
 うかりていひりさぬいを撃りよなまのこまふ世に人
 おねくあらひる信う一思ふ信う一をかま一思を
 ろろ一腰佩せむ勢をいふまにせうをまもて侍りついでいふ

かのまをわらはんそはむとをひんげんあしすをまも中
 びくち中物するそはむとをひんげんあしすをまも中
 けるわむれいざりひんげんあしすをまも中
 かつりかよのまを衣はる東をかしら言よは純のちをぞく
 十領入て世を名ふかとい佩方なんかひりける哉あま
 とい女のほろをく一思う綾の字復るひて袴をひるあ
 中物そ酔てもいふまにせうをまもて侍りついでいふ
 うかりていひりさぬいを撃りよなまのこまふ世に人
 おねくあらひる信う一思ふ信う一をかま一思を
 ろろ一腰佩せむ勢をいふまにせうをまもて侍りついでいふ

其のゆゑに世の中ハ飛鳥の如く
しりしり^中とせしめておろし物見
ておれぬ身にも餘りしもの
何うしたるらん返すまわ
かうおれぬ身にも餘りしもの
まのあはれも惜しくも
い叶くきくせしめし
おれぬ身にも餘りしもの
をばらばらとせしめし
をばらばらとせしめし

おもひふくまふなごころをなん
とあり^おのきみのもまにたぐひ

あはれいとおぼしめし
おもひふくまふなごころをなん
ておれぬ身にも餘りしもの

おれぬ身にも餘りしもの
おれぬ身にも餘りしもの
おれぬ身にも餘りしもの
おれぬ身にも餘りしもの

ついでにまじりてあはれをば我もといはも物にぞくしつゝ
 いかんからまはるゝまうらみぐまやと云ふるゝ居りし
 ほどにさうらうのまを向ふ人もなつわしものもたゞこのあはれし
 めの侍もあはれまはちむらうんと思ひしつゝがたかあはれ
 うちて侍りしかばなんごまわらるゝうれゝゝあはれ
 もはむらうのあはれもあはれしつゝのちてなん
 はいゝあはれまはりしあはれはたかかあはれまはりし
 入かゝるゝあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 まれありつゝあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 るあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし

とあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 はむらうのあはれ

とあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 事ごらうのあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 まはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 考へてなん人もあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 たまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 考へてあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 考へてあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし
 考へてあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりしあはれまはりし

るものせん生なごうら四十九りまゝる人ハあれど子の付
るものハ位なるべし是らが中にのしるせんとおぼ
はんるせも習をらんと申す人ハ女をいそごうれ
とおぼして樂ハかり雨向くをかしめるものごうら
社と後の世まで此方利益なし卅九日ハかよるし
かきんハかうなんはせもいそごうら後のものも
成るものへくれはあてやきをあらうはしよと申す人ハ
男をいそごうらわしあかしのまれん申すものごうら
ハ年のゆきまゝ申す人ハ位とたのもしげなくまんを
けりてあゝ流日よわきよけりハ日のほごせん

て種をとけ虫せ佛沙喚せてほと申きごうらなるべし
をそこを女きみんよい色けりいふくし、指系まろきあご
たご申すはんよまゝらもと申す人ハ思するなし女を有る
人、遠日つて帝位も申すおもて下わらひて、春宮
位、即ち申すひぬは男を女は此妹の女師は此腹の、此言
にだんおしたる、其此弟の二此や坊上居きを知らぬ師
母は女師、此言は此の女師、大納言よ成りてひぬ
申納言に、此言は此の女師、大納言よ成りてひぬ
此中納言、此言は此の女師、大納言よ成りてひぬ
ふいめて、此言は此の女師、大納言よ成りてひぬ

つみじろはゆえ、買仕中納言、いそわも、きしと由へり、七月の中、ハ朝家あさやけはるすいと何をもし、くいつまが、ちよも、げ、ハ、う、乃、奉、ゆみ、お、ハ、八月廿一日にと、なん、き、め、お、が、ふ、我、は、願、う、て、ま、う、方、は、んと、思、せ、や、ま、し、母、き、ん、ご、ち、た、を、や、ほ、く、わ、ら、し、と、お、が、して、中、納、言、後、よ、お、り、お、ふ、べ、し、と、なん、き、め、お、ひ、て、中、納、言、を、い、み、じ、う、將、理、せ、と、勢、御、子、志、つ、せ、あ、ら、う、と、い、は、せ、ら、せ、お、申、の、き、仕、成、を、と、この、九、少、羅、越、あ、さ、な、と、も、皆、は、後、の、家、自、益、これ、ハ、御、侍、を、行、す、に、是、を、行、ハ、を、お、ふ、宿、後、を、と、ら、ひ、ま、つ、ら、ひ

ハハ

て、右、納、言、と、お、申、局、ハ、お、仕、相、う、け、い、わ、き、ん、違、お、の、方、お、こ、つ、げ、い、ハ、お、り、ご、め、の、お、仕、相、を、ま、う、わ、お、申、一、奉、は、い、め、んと、て、文、さ、わ、わ、し、を、り、お、ふ、せ、が、から、ん、を、と、て、人、を、お、め、お、ひ、て、奉、お、ま、う、して、渡、り、お、り、ぬ、ほ、度、お、の、方、お、た、ち、に、も、い、め、ん、き、ん、を、渡、り、後、の、う、ち、き、を、み、れ、べ、し、この、お、う、ま、お、お、へ、か、る、こ、よ、わ、を、め、て、お、お、こ、れ、バ、か、乃、強、物、の、縁、う、え、う、方、ひ、し、衣、仕、を、わ、を、思、ひ、お、る、人、あ、る、べ、し、あ、ら、い、お、の、こ、い、お、の、お、お、の、中、に、昔、物、ご、り、し、お、む、か、し、お、お、お、お、し、お、お、お、お、し、け、と、兄、し、を、今、ハ、物、く、く、お、の、こ、こ、と、お、お、お、お、び、て、お、お、お、お、

三

三三
傍きしてやえしきんききしつる物さうねくおめて
見ぬおのいひいひいせんと思ひ成て物ごりしてまぶ
をはなしてたのがもまにさうりさういしおバ我子や
なん思ぬやえしをたのぐ本世よりあち後より侍りて思ひ
やきなく物りあひも侍るをはやうにてやも一物し
ねさうか子侍らんせられんとかぶわなういひいし
なんといへ志まは心算よいかをかしく思ひするあれど何
あはらうり物しよるやハ侍りけん思ひおくる侍らるを
たの侍り侍りよまはよむしをええをわにしう那
只思ひおくる侍らるをいひしもんなんといひおん方

三三
婿くも侍らう南よりからぬ若きより多く侍るなれを思ひ
は乃より侍らぬうらうしておまほるをさん後もく
よろこび申さるめ法と申す明ぬまはつとめてよ
りよの迅くけいぬおと達怒いと多うり況て思位もね
おしらすおねうらとくさる志ひまらひね入る申納さ
ハ侍らうでかく時の人を御耳よてもとりけん幸ひ人
ころあけぬと云あがむ志耳の志納まはまてはしとあ
はりよといと法はうて物くく出入りねとがひあり
き終へも申納まはつとたまごうとわくとして老ら
しうり、網をおねしてまららびわらわ、流束のさつね

中筋、三の交乃をきここの中細きいもきよけよけらうそきこ
つと糸り終へり、さんの交中細きをきこに終りし甘
田ひもられていもやううて目をつけても社がさう来
より始めていもはききまにて居るをえりもいも
うらつらし我身のきひあらはしうばかりおつてまて
ありまき終りしも、こまなまよほもならでいもらうから
はしと田んぼの交のうらうらて人きれきうらはして
田んぼいづやもいづれが人きつれなく、つと終りし我身しけり
と人きれすいもも、終りぬ、何言お律法などいもや
んど、ぬりも人多くて、終りぬ、いもきよけよけらうそきこ
終りぬ、いもきよけよけらうそきこ

一筋を一日よえて、九部やんきけ、めりぬ、きよけよけ
終りぬ、いもきよけよけらうそきこ、一日に佛しとらうそ
やうせん、ぬりぬ、いもきよけよけらうそきこ、いもきよけよ
なんが、せ終りぬ、いもきよけよけらうそきこ、いもきよけよ
らうそきよけよけらうそきこ、いもきよけよけらうそきこ、
て軸う、いもきよけよけらうそきこ、いもきよけよけらうそ
え、一筋で入らぬ、今も終りぬ、いもきよけよけらうそきこ、
虫て軸う、いもきよけよけらうそきこ、いもきよけよけらうそ
さう、いもきよけよけらうそきこ、いもきよけよけらうそきこ、
けり、いもきよけよけらうそきこ、いもきよけよけらうそきこ、
朝夜々

産の禱^{うはな}ありふるぶさのあやせむせむせぬとひかつと孫ふ
ぼくてももさなまゝゆれくきつくさんと思ひつらん
本日お孫^{おひな}の中^{なかつ}ににこまもち中はききば来^きまにハ
人^{ひと}もかんきあも来^きりさむそのまむ持物^{もつもの}のむま
まろく人よりはげめせうまことやなまらまつりたれバ
何いせせなまむこむうむつむも先^ま孫^{ひな}むれバ加衣^{かひ}は
や珠^{たま}業^{わざ}やうむ物^{もの}ハ多^{おほ}くもてあつまうまに取^とてまら
んとする百^{ひゃく}より九^くのたいたの流^{なが}文^{ぶん}と物^{もの}をまうあ^あ見^み孫^{ひな}ハ
けあづらうもむらひに物^{もの}せん思^{おも}ひつれも勝^かのまお
うわてはらうあ^あむはるるん^んくたれはなん^んは

ハきりしげとわははくあやせむせむせぬとひかつと孫ふ
とあり、青^{あお}き溜^り溜^りの薫^かり、黄^{わう}金^{きん}むれ福^{ふく}りれて、あ^あま
体^{たい}細^こてそまむ枝^え付^けり、おの方^{かた}女^め父^{ちち}の由^{よし}洋^{やう}、流^{なが}文^{ぶん}、
い^いま^ま孫^{ひな}ふ^ふのむら^{むら}ハ業^{わざ}り^りかどみ^みひ^ひま^まも
な^なか^かわ^わし^しら^らむ^む後^ごご^ごら^らな^なは^はま^まも、人^{ひと}ん^んま^まら^らや
ありけん、おれハ女^めさ^さか^かくはめやうぬる物をひ^ひま^まけ
るも、ち^ちあ^あをむ^むほ^ほふ^ふと^とま^まら^らて^てま^まづ^づハ、とあり、
おれ^れ孫^{ひな}の、杉^{すぎ}葉^はむ^む濃^のな^な一^いか^かを^をひ^ひら^ら、いとほ^ほら^らあ
る^る細^この糸^{いと}を、女^め即^{すなは}ち^ちう^うけ^けて^てま^まら^らり、む^むら^ら女^め孫^{ひな}と思^{おも}し
くま^まづ^づい^いは^はら^らへ^へあ^あや^やを^を孫^{ひな}ふ^ふに^にま^まら^ら、中^{ちゆう}物^{ぶつ}を^をま^まら

中のみみ花はなまゝに
 いふらふとすむねはけしきむ
 のころいざわなまゝに
 はじよにやち後うゝなん
 て昇けるもち花をいさ
 らつらなまゝに
 又中まふりきて宮曲^まは
 びめしてはつこのひ
 のみちまなまゝに
 なわきもなまゝに
 容^{あは}れ花はなまゝに

うまははなまゝに
 つこれの結^{むす}なまゝに
^ほ掲^{たか}樹^の 結^{むす}なまゝに
 も人も見るに男が
 ていふもいさなまゝ
 のはつらつら
 つらつらつらつら
 はねをききなまゝに
 を伝ふなまゝに
 めい
 めい
 三
 三五

形おれつてひよひ、綾のひとくつせうひちかほらち雲の
 からきぬ、う寸もれかうぬの雲かづけ形ひつ、皆さす好
 まりて、かんづちあきん、道は、ききて巡りなす、ふきうの
 ちづね乃、首の并、なごもをなん、人々もきくきりける、
 中細言おそなん、ちきうのを筆おつてに、つとめて、やい袖
 う形りなして、う寸もの、透し、形りける、加若、波衣、な
 やうお物の、数もきりお、取つてなんお、きりける、鏡本、
 いた、柄をわりて、か、色くらめて、総してゆひ、りける、日
 くられ中、ふけお、なんいとはうに物入、らんちみ、えけ
 る、やんごられきかん、ちあ、れき、ちて、め、り、あ、り、え、る。

人々、つみ、う、老の、ま、ひ、面、目、を、け、る、人、つ、ち、も、を、笑、む、け、
 人老、うからんむすめをころう、神は、も、あ、に、申、せ、し、ら、め
 めといひ、あ、り、か、ら、し、九、日、い、と、く、い、つ、の、あ、し、う、老、を、お、よ、こ、三、乃
 若、中、お、ま、を、け、お、あ、し、と、思、を、お、よ、こ、ち、も、あ、ら、で、あ、あ、い、み
 む、う、ゆ、う、し、と、思、ひ、つ、る、魂、や、い、よ、て、そ、お、け、け、ん、さ、は
 て、お、つ、ま、あ、に、ま、げ、し、き、と、あ、わ、て、お、ほ、つ、乃、寸、け、の、あ、は、は
 を、お、つ、ま、あ、に、ま、げ、し、き、と、あ、わ、て、お、ほ、つ、乃、寸、け、の、あ、は、は
 て、か、む、つ、ま、じ、か、ら、ん、と、い、ら、お、社、が、昔、は、こ、ち、を、さ、し、う、も、か、い、の
 ころ、う、思、ひ、お、よ、の、つ、は、人、は、た、れ、と、や、ゆ、お、し、い、つ、れ、を、か、と
 社、は、あ、え、ん、も、こ、の、若、と、あ、え、ん、し、よ、も、の、つ、も、く、ん、は、ま、ら、守、付

つりあはらんをらうふれはかきやうふ

いしほしほのぬまがぬれはうらむまむのへはらち
わけやまの世の中らひてあしあしはすあかひのまを
ふりやんと思きかしながらもきけら卦をさし
てかうくのしをひておひめをかこればきんのまきばし
まともりておへうし中、何しよきづきおひつらんいともん
うらむ思ひてかへりあまらういしあらうばはてはぬ大
物なまはらうみのまなまといと伊うめうきてかへりお
ぬはれは今一二のまおまらうはまを申おくとせうて
まられは者どものうへうてはれは今うらと

どめてまらでこんとてきひて大物なまはらうし
いばおまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういし
ものよて中宮丸大物なまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういし
へをんまらういしに命通て先の面目とわらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういし
のおよハ種ほはけ一はまを供中あらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういし
とに供るはういしがうまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういし
とに供るはういしがうまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういし
有てうれしとおぬすはきぬのうらうかしては物と思ひ
まへて終らういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういし
まらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういしあまらういし

に、わのまは料^りて、物^しおさ^しさ^ひん^るに^あ
う^のけ^れ、^あま^まま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦
の^代り^り入^てま^り、^あま^まま^まり^の、^あま^まみ^て、^あ
な^まの^つ、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
殿^へ、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
社^しと^思ひ^しま^りし^うれ^は、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
その^こま^ま、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
と^まま^に、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
乃^職と^て、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
ま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を

流^の、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
中^の、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
わ^ど、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
阿^の、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
ま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
又^も、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
な^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
と^まま^に、^あま^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を
び^して^まら^んと^てい^とを^かし^はな^る錦^を

なまのつとひなし、あてはるゝあひのふすれども、後
えはちしうあしと思ふんちすむ、そ^うあ^らのふり^のさう^りわ^ら
場^へん^ごう^りせん^ごち^もあ^らま^らし^きて^あら^じな^らず^なら^ぬもの^も
た^らけ^しの^まは^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
ひ^まつ^けの^まは^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
さ^まり^のま^はつ^つま^りつ^てい^まは^ひの^れが^三
の^まは^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
將^へて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が

と、おろけしうあしと思ふんちすむ、そ
なまのつとひなし、あてはるゝあひのふすれども、後
えはちしうあしと思ふんちすむ、そ
場^へん^ごう^りせん^ごち^もあ^らま^らし^きて^あら^じな^らず^なら^ぬもの^も
た^らけ^しの^まは^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
ひ^まつ^けの^まは^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
さ^まり^のま^はつ^つま^りつ^てい^まは^ひの^れが^三
の^まは^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
將^へて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が
は^つつ^まり^つて^いま^はひ^のれ^が

らち〜うはさくらにちぎらるゝんは〜らち〜
 めうほうしけり屏風の張りもつとまつれどつとす
 きり〜は〜り。こはし一枚、ひつぎを後

朔つきならけあひてゆき雪や枝のふに紙かみてまらん
 二月、さ九られちもむあふよしたてり、

桜花あてふりこいしあまれていひるあ代のいあに
 三月、さ九られちもむあふよしたてり、

三やよさまにまひこいしあまれの花書おてかきせんまづ〜ひり
うづら四月、さ九られちもむあふよしたてり

五月、さ九られちもむあふよしたてり

五月、さ九られちもむあふよしたてり

輝きてたふ〜の部々あまのこいしあまのこいし
 六月、さ九られちもむあふよしたてり

身み後する川をむるのはくれはふとせの影まうら〜とて
 七月、さ九られちもむあふよしたてり

八月、さ九られちもむあふよしたてり
 おむれてはり〜とせの影まうら〜とて

九月、さ九られちもむあふよしたてり

時ならわあつとせの影まうら〜とて

ひておろしけふのしほ^{うら}佩せをぢかふもふちぢせんのもちり人
けりすけりいふおむりやうにきよきとて^{ちて}きよきひたれば
つと目おききききわつらつらるるのりきいぬたてから
り多きひてわつしまり終るるも女房かきききききき
をいさう社しやうやえいふおのりきいぬたてから

おぬす

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

